

# 「防災気象情報の満足度に関する調査」報告書

## ・調査の背景と目的

気象庁では、災害の軽減、交通の安全、地球環境の保全、国民生活や社会経済活動等に寄与すべく、わかりやすく質の高い気象情報（地震、火山、海洋等の情報を含む。）の作成・提供等に向けて業務改善を進めていくため、気象業務の評価に取り組んでいる。この評価活動において、気象業務に関する改善成果の把握や改善方向の検討のため、気象情報ごとにその利用者の評価（満足度）・ニーズなどを測定・把握することとし、13年度に気象情報の満足度調査に着手した。

今回の調査では、気象庁の作成・提供している各種の気象情報のうち、気象災害、地震・津波・火山災害の軽減のために作成・提供している「防災気象情報」について、その改善の検討に資する情報を抽出することを目的として、利用者である防災関係機関等（過去に顕著な自然災害を受けた地域の一部住民を含む。）における評価（満足度）を把握することとした。

## ・調査の概要

### 1. 調査する情報の種類と調査の内容

今回の調査においては、気象庁が作成・提供する次の防災気象情報を対象とした。

大雨警報・注意報とこれらに関する情報（以下「大雨警報」ともいう。）

台風情報

地震情報

津波予報・情報

東海地震に関する情報（以下「東海地震情報」ともいう。）

火山情報

調査内容は、これらの～の情報の種類ごとに総合的に評価した場合の満足度（総合満足度）、情報の種類ごとにそれぞれ設けた、情報の内容（精度、わかりやすさなど）、入手環境、気象台の対応等の評価項目についての満足度と重視度であり、併せて、これらの情報の認知・利用状況、気象庁への要望等を調査した。

さらに、気象統計情報に対する満足度、ニーズ等も調査した。

### 2. 調査対象機関、調査の方法・期間

防災気象情報に対する満足度の調査対象は、防災関係機関と住民とし、アンケート調査（質問紙郵送法による郵送配布・回収）によって、平成14年2月中旬から3月にかけて実施した。調査の対象機関（対象者）の区分は、次のとおり。

対象区分	防災関係機関				住民
	都道府県	市区町村	ライフライン	報道機関	名古屋市、袋井市、清水市、宮古市、鹿児島市

・都道府県（支庁を含む）とは、消防防災、河川管理等を担当する部局と都道府県の警察

- ・市区町村（東京都の特別区を含む。）については、全国のすべての自治体の防災を担当する部局
- ・ライフラインについては、電気・ガス・通信関係の指定公共機関その他の機関、鉄道をはじめとした交通機関を対象に調査
- ・報道機関については、主として新聞・テレビ・ラジオの報道部門を対象に調査
- ・住民については、名古屋市、袋井市、清水市、宮古市、鹿児島市のそれぞれ200、200、200、250、250人にアンケートを送付し調査

住民を対象に満足度の調査を行った防災気象情報と地域の関係は、次のとおり。

	名古屋市	袋井市	清水市	宮古市	鹿児島市
大雨警報					
台風情報					
地震情報					
津波予報・情報					
東海地震情報					
火山情報					

- ・名古屋市については平成12年9月の東海豪雨で被災した西区の住民に限定し、宮古市については海岸から0.5kmの範囲に居住する住民に限定し、また、鹿児島市については2割（50サンプル）の住民は桜島のある東桜島支所の住民から抽出

### 3. アンケート回収の状況

全体回収率（有効回答数N）：65.1%（N=3166）

対象区分別の回収率（有効回答数N）：

防災関係機関：68.4%（N=2573）

都道府県（消防防災、警察、河川管理等）	市区町村（防災担当）	ライフライン（電気、ガス、通信、鉄道等）	報道（テレビ、ラジオ、新聞等）
75.7%（N=137）	70.2%（N=2273）	64.6%（N=73）	36.7%（N=84）

住民：53.9%（N=593）

名古屋市	袋井市	清水市	宮古市	鹿児島市
57.5%（N=115）	63.5%（N=127）	52.5%（N=105）	54.0%（N=135）	44.4%（N=111）

### 4. アンケート結果の集計・分析方法

集計・分析は、情報の種類ごとに行い、防災関係機関では、原則として都道府県、市区町村、ライフラインと報道の別に、住民では、可能な限り居住地別に行った。

満足度の集計・分析では、防災関係機関では「調査対象の情報を入手している」と回答した機関を、住民では「調査対象の情報について知っている（認知）」と回答した住民を、それぞれ調査対象とした。なお、大雨警報と台風情報の集計・分析では、ほとんど全ての防災関係機関が情報を入手しており、回答のあった全機関を対象とした。

アンケート質問票では、情報の種類ごとに、その内容、発表・伝達、解説等の評価項目を設けて、各評価項目の満足度（「満足」、「まあ満足」、「やや不満足」、「不満足」の4択）と重視度（「重視する」、「やや重視する」、「あまり重視しない」、「重視しない」の4択）を把握した上で、その情報についての総合的な満足度の評価（「満足」、「まあ満足」、「やや不満足」、「不満足」の4択）を回答するようにしており、集計・分析では、それ

ぞれ4択の各回答の数とその回答の全回答者数に対する割合(%)を集計するとともに、評価項目ごとの満足度・重視度の関係、満足度と災害経験の関係等を分析した。

満足度・重視度の評価項目の数は、大雨警報が18(5)項目、台風情報が11(5)項目、地震情報が17(6)項目、津波予報・情報が14(8)項目、東海地震情報が11(2)項目、火山情報が9(3)項目である。なお、住民は、情報の入手方法が限られていることなどから、評価項目数を絞って調査した(括弧内の数が、住民を対象とした評価項目の数)。

#### ・集計・分析結果

結果は、総合満足度の概要、情報別(大雨警報、台風情報、地震情報、津波予報、東海地震情報、火山情報)の満足度の集計・分析に分けて記述している。各情報の満足度では、利用者の区分別(都道府県、市区町村、ライフライン、報道と住民)に、さらに可能なものは住民の所在地別に集計を行っている。また、各情報では評価項目ごとの満足度や重視度の集計・分析の結果も記述している。

さらに、最後に、気象統計情報に対する満足度の結果も記述した。

以下、集計・分析結果において用いる用語を事前に解説する。

#### 総合満足度と総合評価点

情報ごとの総合満足度は、利用者の区分別に「満足」、「まあ満足」、「やや不満足」、「不満足」と無回答を集計したもので、それぞれの割合(%)を回答総数、総合評価点とともに示す。総合評価点は、満足度を100点満点で測るため、「満足」、「まあ満足」、「やや不満足」、「不満足」のそれぞれに、均等に100、67、33、0の重み点を与えて、その4回答の全体を平均したもので、満足度分析の一般的方法である。

#### 評価項目ごとの満足度(重視度)評価点

評価項目ごとの満足度(重視度)評価点は、各情報の評価項目ごとの満足度(重視度)に対して4択で回答された「満足(重視する)」、「まあ満足(やや重視する)」、「やや不満足(あまり重視しない)」、「不満足(重視しない)」のそれぞれに、100、67、33、0の重み点を与えて、評価項目ごとに、その4回答を平均したものである。

#### 評価項目ごとの改善要求度

各情報において、重視度評価点が高いにもかかわらず満足度評価点が高い評価項目は、利用者の改善への要求が高い事項と考えられるため、各情報において評価項目ごとの改善要求度を次式で定義する。

$$\text{改善要求度} = (\text{改善要求得点}) / (\text{改善要求得点の情報ごとの平均値})$$

ここで、改善要求得点 = 重視度評価点 × (100 - 満足度評価点)。

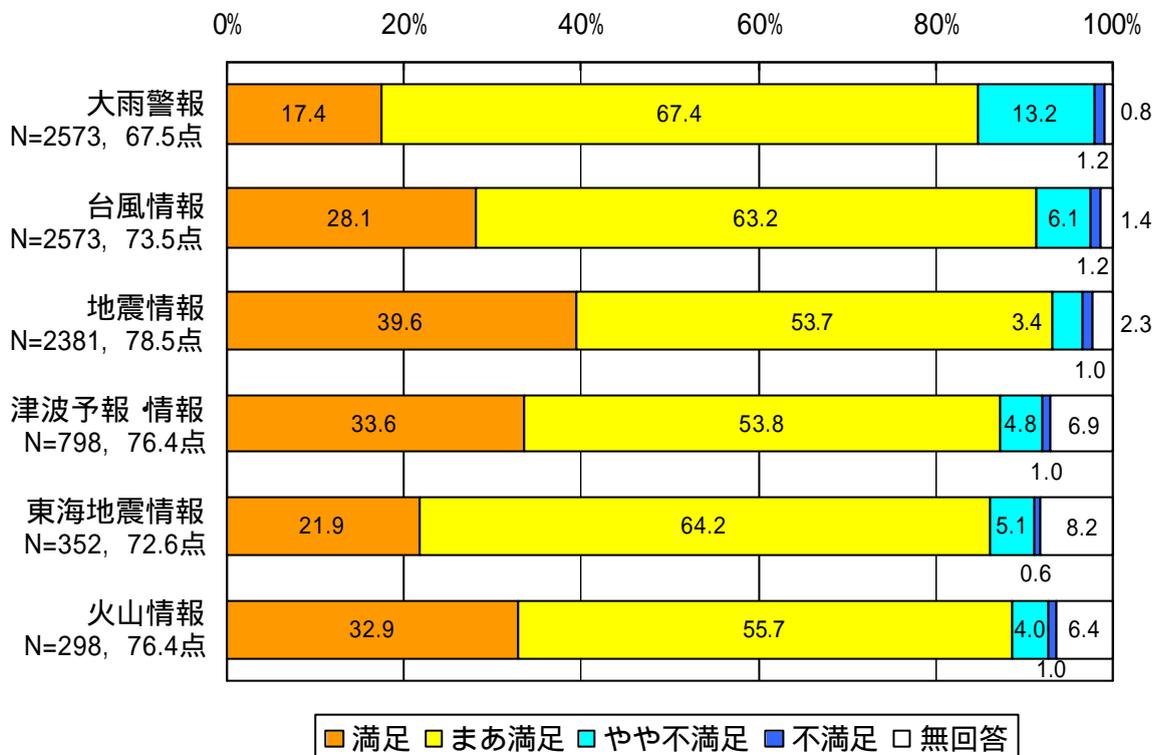
各情報において、評価項目ごとの改善要求度は1を中心とした値をとり、改善要求度が大きいほど、その評価項目に対する改善を要求する程度が大きい。

以上の評価項目ごとの満足度(重視度)や改善要求度は、利用者の区分別に分析している。

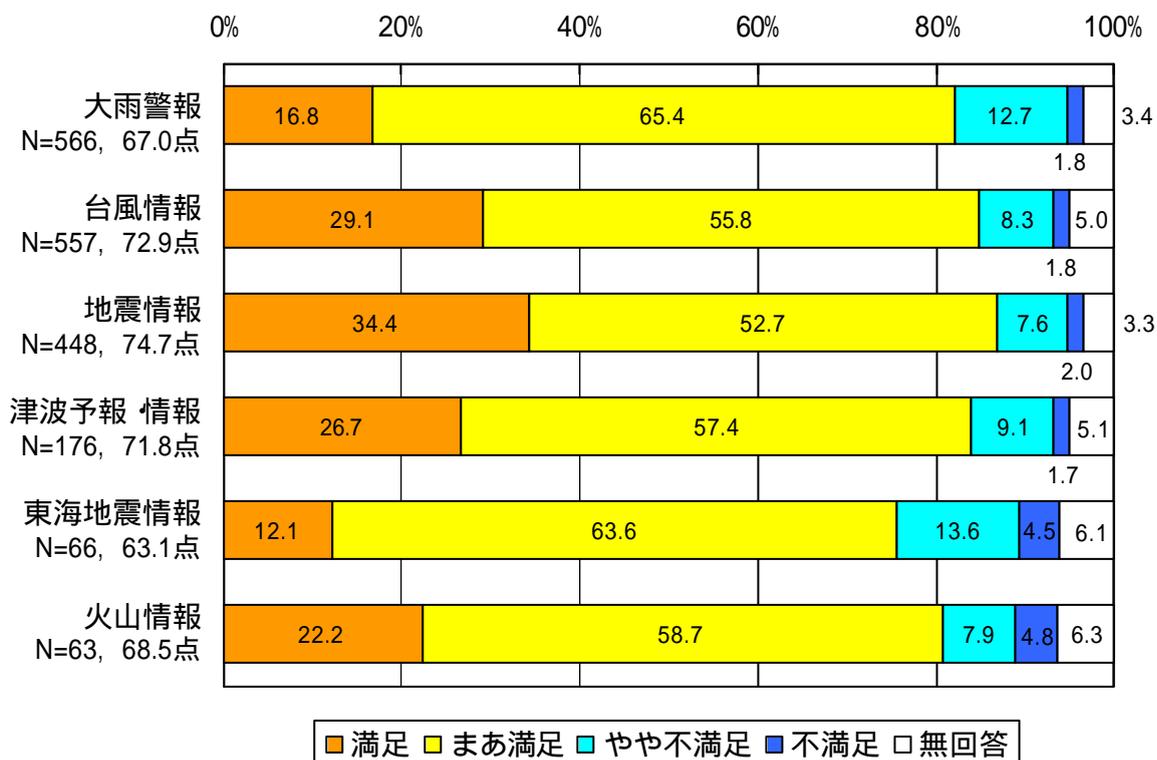
# 1. 総合満足度の概要

## (1) 防災関係機関と住民の各情報に対する総合満足度

### 防災気象情報の種類別の総合満足度 (防災関係機関)



### 防災気象情報の種類別の総合満足度 (住民)

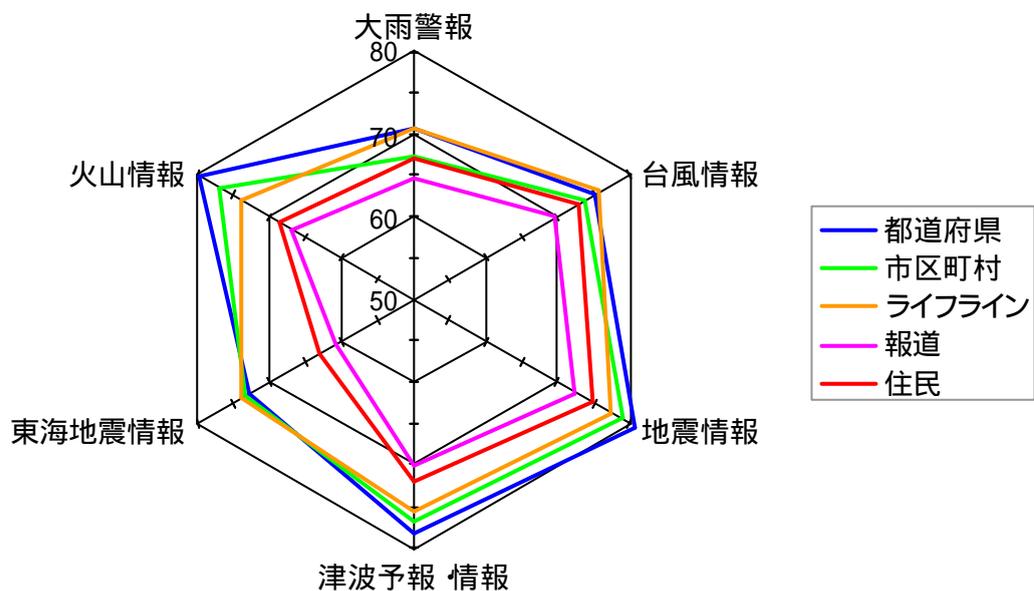


- ・全ての情報で、「まあ満足」の割合が 50%以上を占めており、また「満足」と「まあ満足」を合計した満足計は、概ね 8 割を超え、全体として満足度が高い。特に、地震情報や台風情報の防災関係機関における満足計は、9 割を超えた。
- ・情報別の満足度の全体傾向（総合評価点、「満足」・「まあ満足」の割合等）は、防災関係機関と住民では類似しており、防災関係機関で満足度が高い情報は住民でも高い。
- ・防災関係機関と住民の満足度では、防災関係機関の総合評価点は住民に比べやや高く、住民では、全般に「やや不満足」や「不満足」の割合が防災関係機関に比べ多い。
- ・防災関係機関、住民ともに満足度が最も高い情報は、地震情報となっている。
- ・防災関係機関では、大雨警報の総合評価点が 67.5 点と最も低く、「やや不満足」と「不満足」を合計した割合は、14%を超えた。
- ・住民では、東海地震に関する情報の総合評価が 63.1 点と最も低く、「やや不満足」と「不満足」を合計した割合は、18%に達している。

これらの防災関係機関の結果は、都道府県、市区町村、ライフライン、報道の区分のうち、回答数の 9 割近くを占める市区町村の意識（満足度）を反映したものである。

## （ 2 ） 情報ごとに利用者の区分別でみた総合満足度

### 情報の種類別・利用者別にみた総合満足度（評価点）



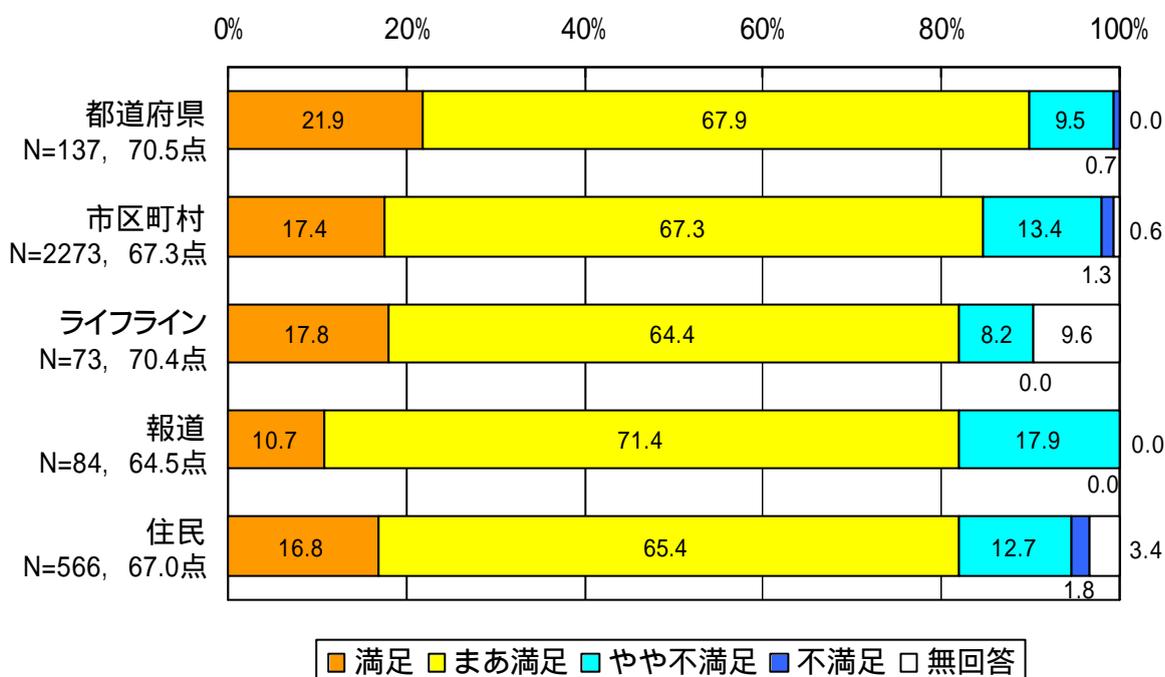
- ・利用者の区分別に満足度（総合評価点）を見ると、全般に都道府県の満足度が高く、報道の総合評価点はすべての情報について最も低い。
- ・報道と住民では、各情報に対する総合評価点の傾向が類似しており、他の利用者に比べて評価点が低い。特に、東海地震情報に対する総合評価点の低さが顕著である。
- ・都道府県、市区町村とライフラインでは、各情報に対する総合満足度は概ね似た傾向を示すが、大雨警報に対する市区町村の総合評価点の低さ、火山情報に対するライフラインの総合評価点の低さが目立つ。

## 2. 情報別の満足度の集計・分析

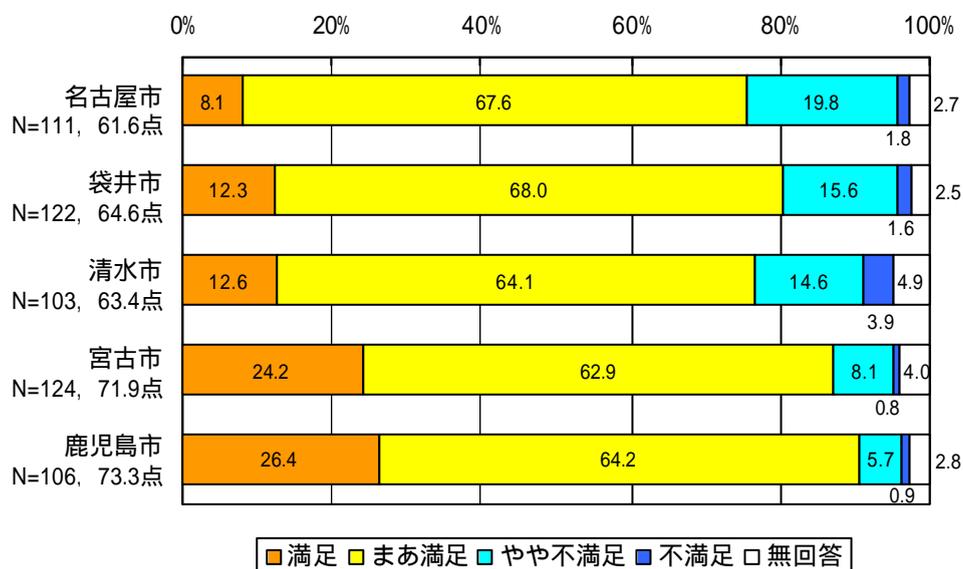
### (1) 大雨警報の満足度

#### ア 大雨警報の総合満足度

#### 大雨警報 注意報 情報の総合満足度



#### 大雨警報 注意報 情報の総合満足度 (住民)



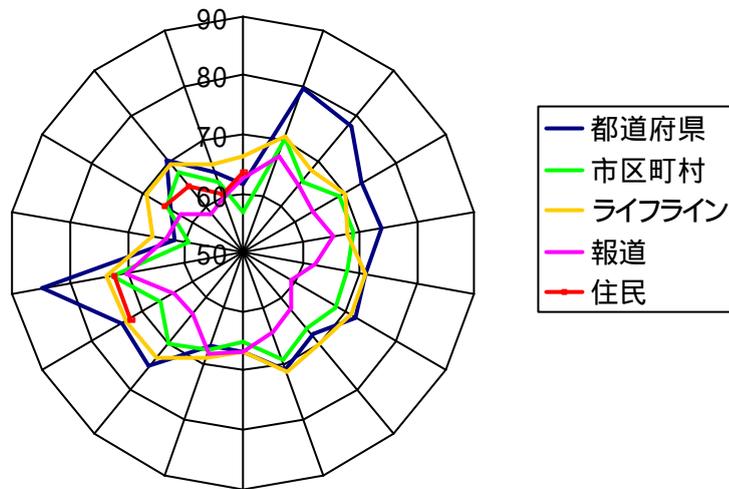
- 大雨警報の総合評価では、各利用者とも「まあ満足」の割合が全体の約3分の2を占めている一方、「やや不満足」と「不満足」を合計した不満足計は「満足」に近い割合を占めており、特に報道では「やや不満足」が「満足」を上回っている。
- 利用者の区分別の満足度を総合評価点や「満足」の割合で見ると、都道府県、ライフライン、市区町村の順に高く、「やや不満足」と「不満足」を合計した不満足計でみ

ると、報道、市区町村、住民の順に満足度が低い。

- ・居住地による住民の満足度に違いは大きく、総合評価点では名古屋市が 62 点弱で最も低く、平成 12 年東海豪雨の風水害経験者の意識が反映されたものとみられる。
- ・宮古市や鹿児島市に比べて袋井市・清水市の住民の総合評価点が低く（8 点程度）防災関係機関の大雨警報に対する総合評価点においてみられる地域差（東海地方は約 65 点で、東北地方や九州南部地方に比べ 3～4 点低い）と同様な傾向を示している。

## イ 大雨警報・注意報とこれら関係する情報の評価項目ごとの満足度・重視度

大雨警報などに対する評価項目ごとの満足度



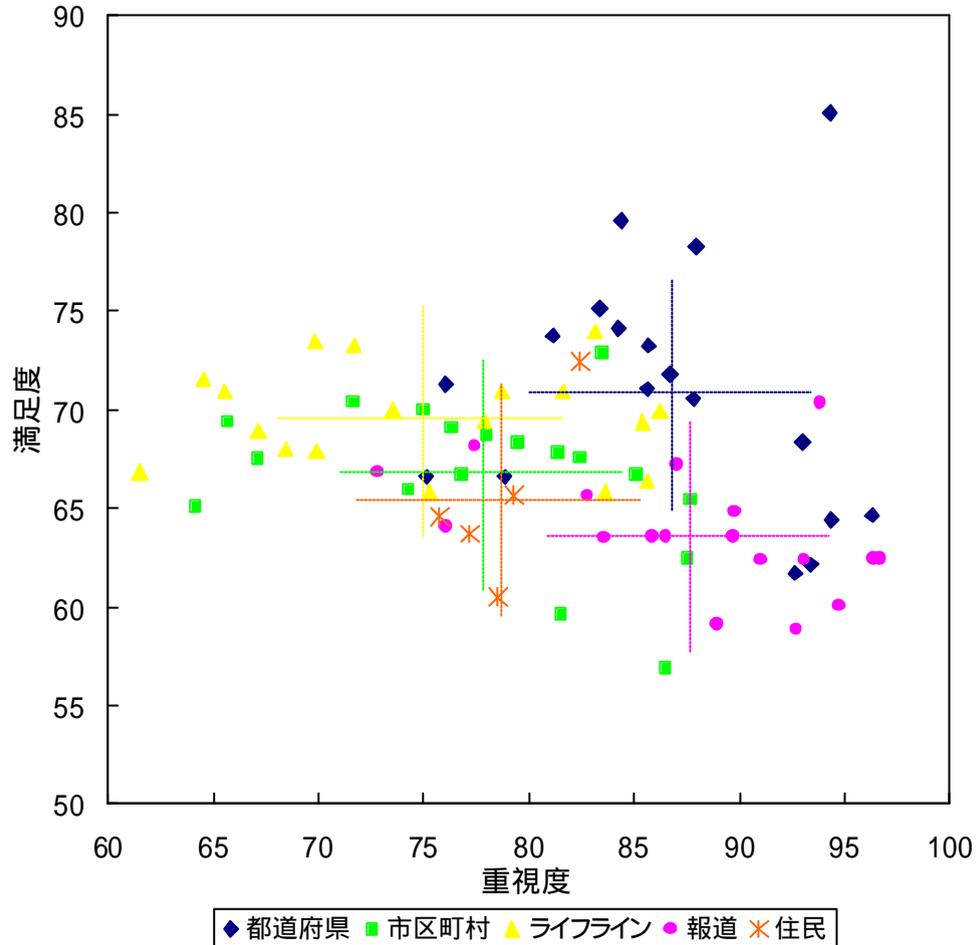
### 評価項目

警報の発表地域 (単位)	入手した情報のきれいさ・見やすさ	気象情報の内容のわかりやすさ
警報の雨の降り方の予想 (精度)	受信装置の操作性	気象情報の防災上の警戒事項
警報の内容のわかりやすさ	注意報の発表のタイミング	気象台の解説内容の専門性
警報の発表のタイミング	注意報の解除のタイミング	気象台の解説のわかりやすさ
警報の解除のタイミング	注意報の内容のわかりやすさ	気象台との連携
警報発表から受信までの伝達時間	気象情報の雨の実況と今後の予想	気象台職員の対応

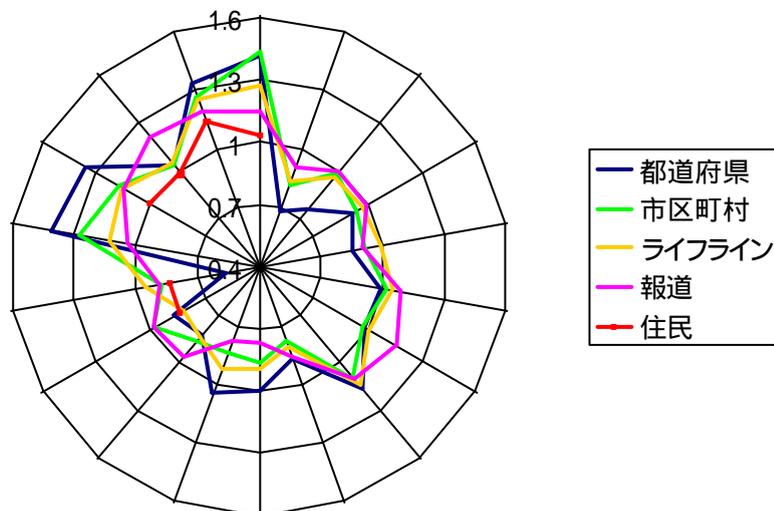
- ・評価項目ごとの満足度評価点では、総合満足度と同様、全般傾向は都道府県で高く、報道で低い。また、評価項目によって評価点の違いは、都道府県で大きく（最大 20 点以上）、ライフラインなどでは小さい（10 点程度）。
- ・評価項目による評価点の違いが大きな都道府県では、やなどが高い評価となる一方、やなどで低い評価となっている。「不満足」または「やや不満足」の理由として、「警報の発表地域」が広いこと、「警報解除のタイミング」が遅いことが、それぞれ 500 件、300 件以上も寄せられた。
- ・全項目の満足度と重視度の評価点を平面図で見ると、重視度が高く満足度が低い傾向の報道や、重視度と満足度が相対的にともに高い都道府県の意識が目立っている。また、評価項目ごとの満足度・重視度は広範囲にばらついている。

- ・改善要求度（重視度が高い一方で満足度が低い項目で数値が大きく、利用者別に平均したもの）は、各利用者に類似の傾向が見られ、改善要求が大きな項目として、特に都道府県や市区町村における（警報の発表単位）、（雨の降り方の予測精度）やと（警報の発表・解除のタイミング）、報道では（警報や情報の内容のわかりやすさ）が目立っている。

大雨警報などの満足度・重視度



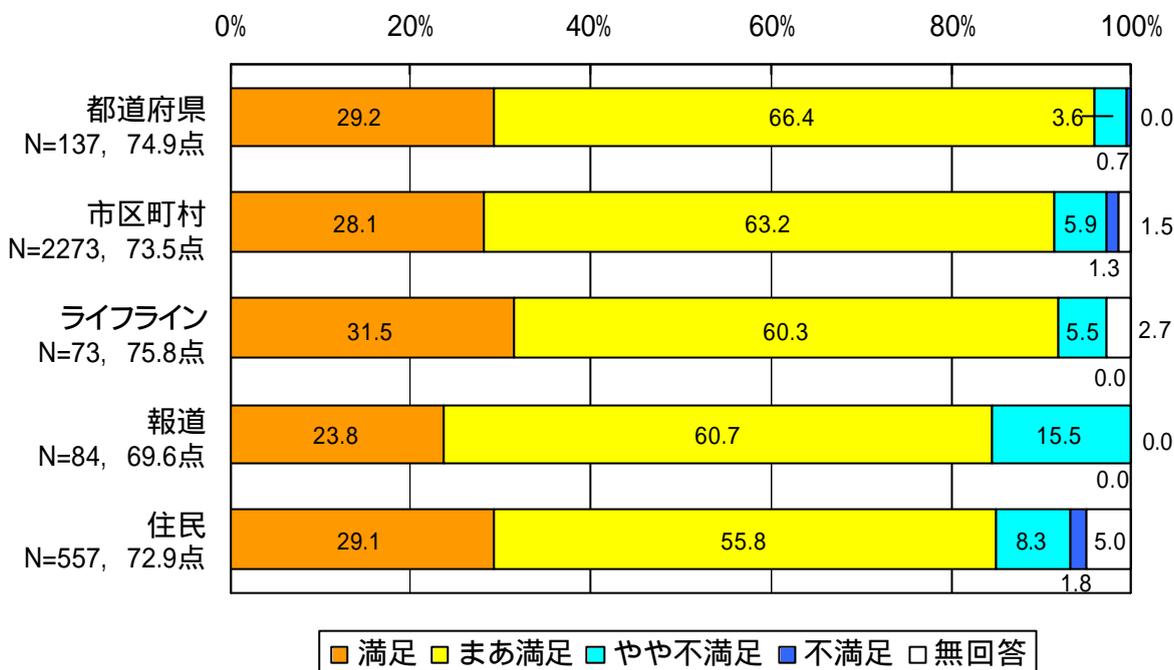
大雨警報などに対する評価項目ごとの改善要求度



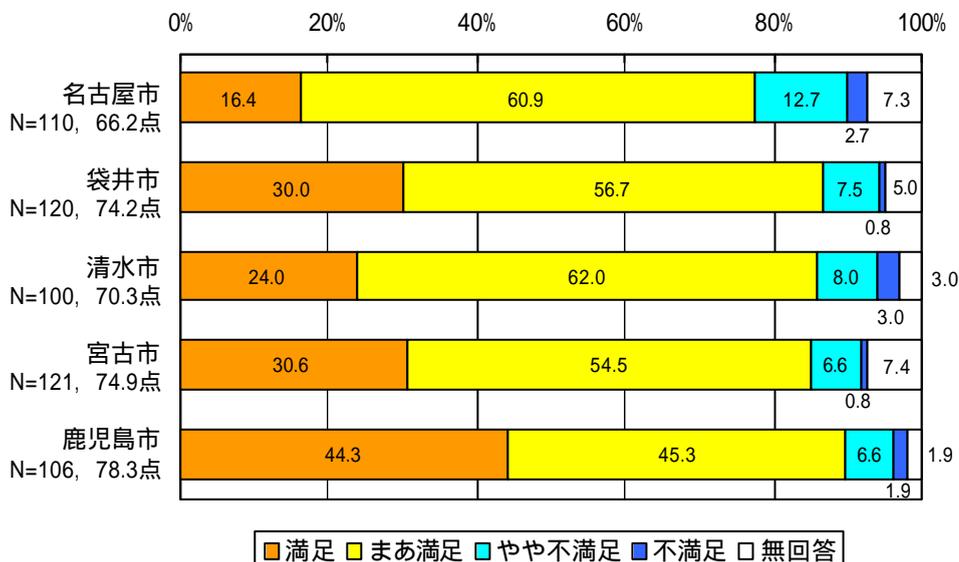
(2) 台風情報の満足度

ア 台風情報の総合満足度

台風情報の総合満足度



台風情報の総合満足度 (住民)

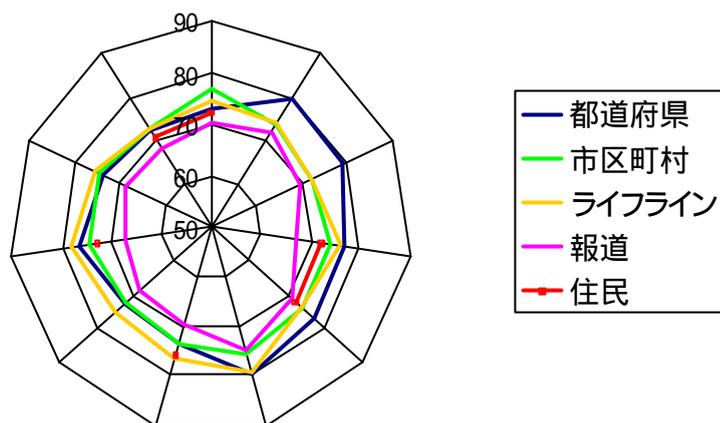


- ・ 台風情報の総合評価では、「満足」と「まあ満足」の合計（満足計）が平均で9割を超えて、全体として高い満足度を示している。
- ・ 利用者の区別の満足度を総合評価点や「満足」の割合で見ると、ライフライン、都道府県、市町村の順に満足度が高く、満足度が最も低いのは報道となった。利用者別、住民の居住地別にみた満足度の高低の傾向は大雨警報と類似している。

- ・利用者別の満足度の違い（最大6点）に比べ、居住地による住民の満足度は最大12点と大きく、名古屋市（西区）では大雨警報と同様に住民の総合評価は厳しい。

### イ 台風情報の評価項目ごとの満足度・重視度

台風情報に対する評価項目ごとの満足度



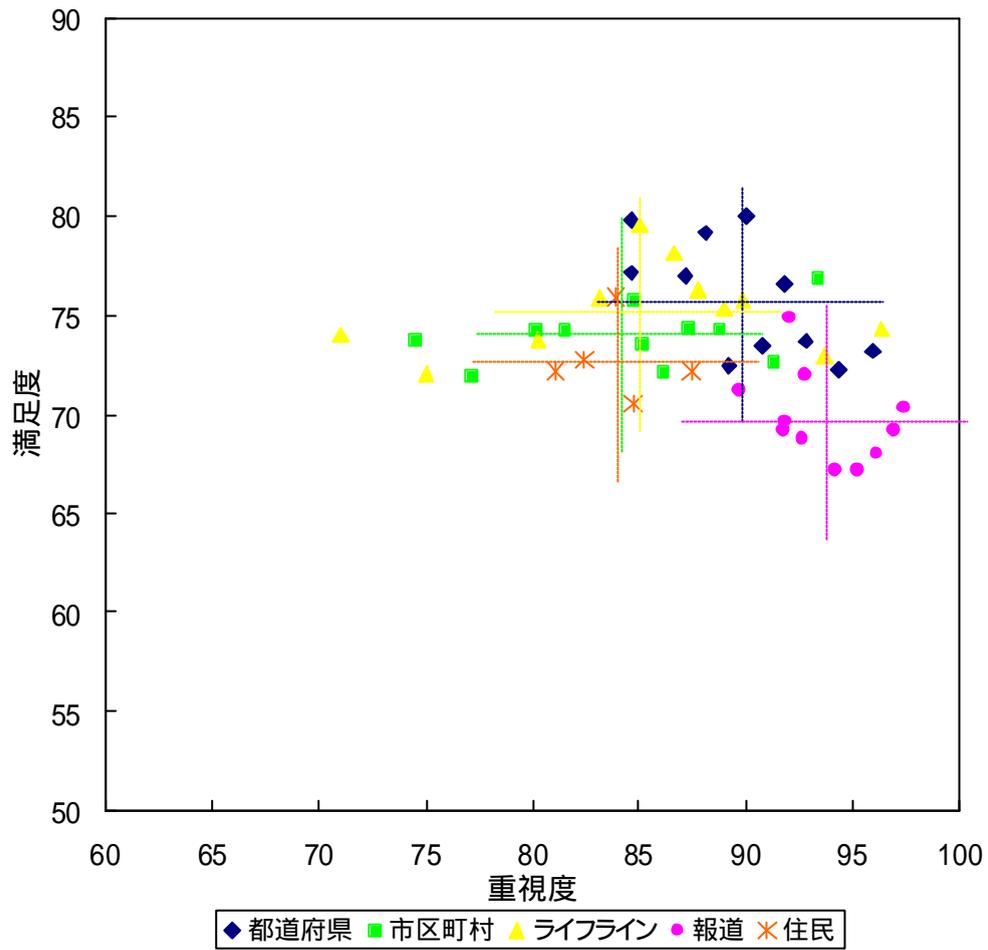
#### 評価項目

予報精度 (台風の位置・風の強さ) 予報期間 (4時間先、48時間先など) 必要な内容 適切な情報量 内容のわかりやすさ (本文・図)	発表の頻度 発表のタイミング 入手のしやすさ	気象台の解説内容の専門性 気象台の解説のわかりやすさ 気象台との連携 気象台職員の対応
--	------------------------------	--

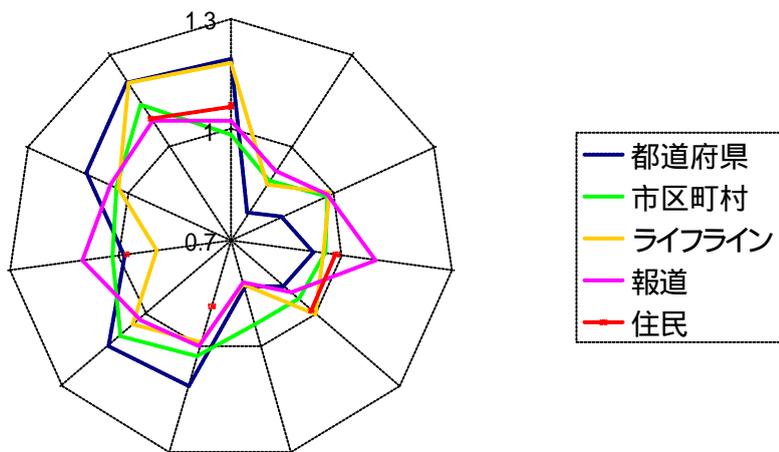
- ・評価項目ごとの満足度評価点では、総合満足度と同様、全般傾向として都道府県の評価が高く、報道で低い。
- ・評価項目別の満足度評価点に、大雨警報に見られるほどの差はなく、最大で10点程度となっており、全体として、予報精度、予報期間、必要な内容、適切な情報量、内容のわかりやすさなどの満足度が高い。「不満足」または「やや不満足」の理由として、より詳しい市町村ごとの情報の不足、発表の頻度・タイミングへの不満、最新情報の入手希望などが寄せられた。また、住民からの不満理由としては、進路予報などの精度の悪さが目立った。
- ・満足度と重視度の評価点を平面図で見ると、各項目を全般に重視し満足度が低い傾向の報道や、重視度と満足度が相対的に高い都道府県の意識が目立っている。また、大雨警報と比べ、満足度・重視度ともに項目ごとの差は大きくない。
- ・改善要求度（重視度が高い一方で満足度が低い項目で数値が大きく、利用者別に平均したもの）は、利用者ごとにそれぞれ特徴がみられ、改善要求が大きい項目は、それぞれ都道府県では（予報精度）と（予報期間）と（発表の頻度）と（発表のタイミング）、市区町村では（必要な内容・適切な情報量）、ライフラインでは（内容のわかりやすさ）と（解説のわかりやすさ）と、報道では（内容のわかりやすさ）と（解説のわかりやすさ）と

すさ) 住民では と などである。

台風情報の満足度・重視度



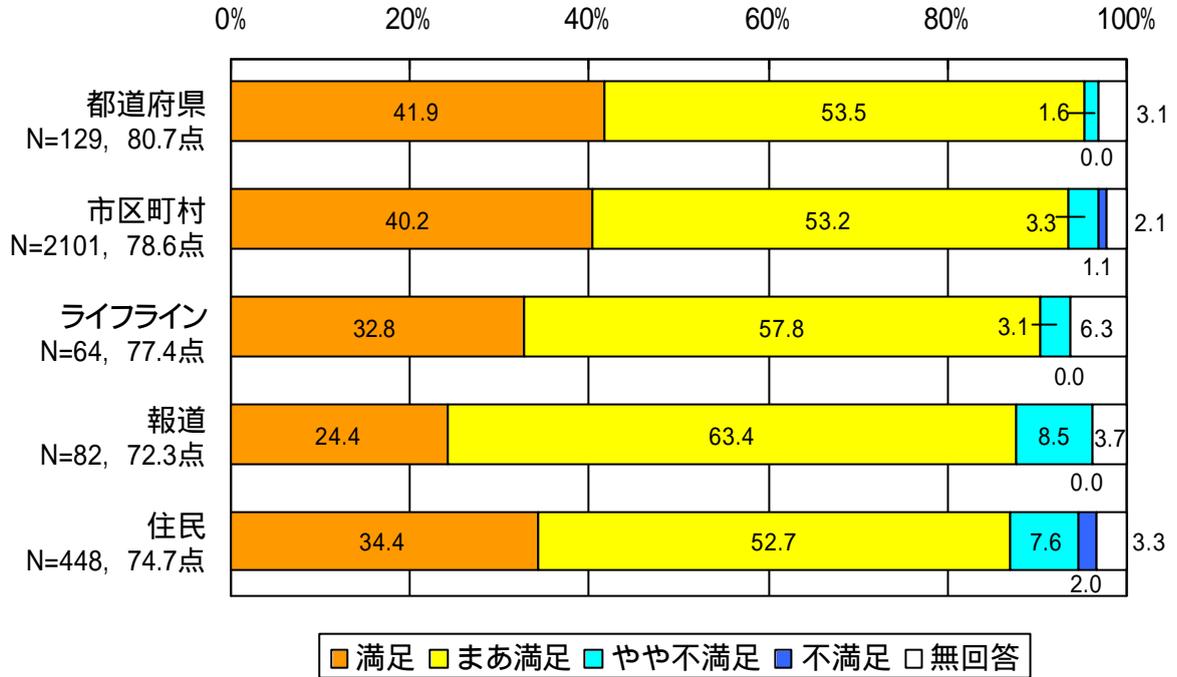
台風情報に対する評価項目ごとの改善要求度



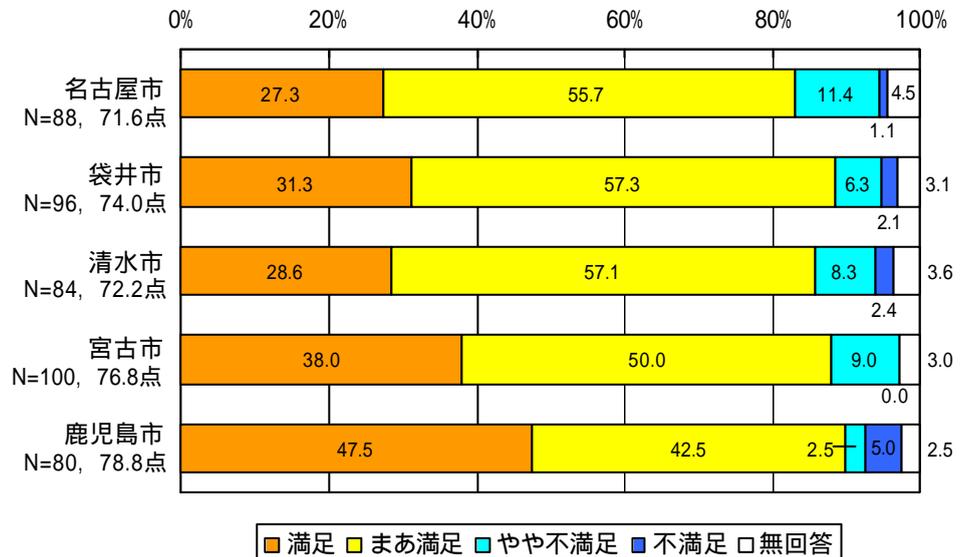
(3) 地震情報の満足度

ア 地震情報の総合満足度

地震情報の総合満足度



地震情報の総合満足度 (住民)

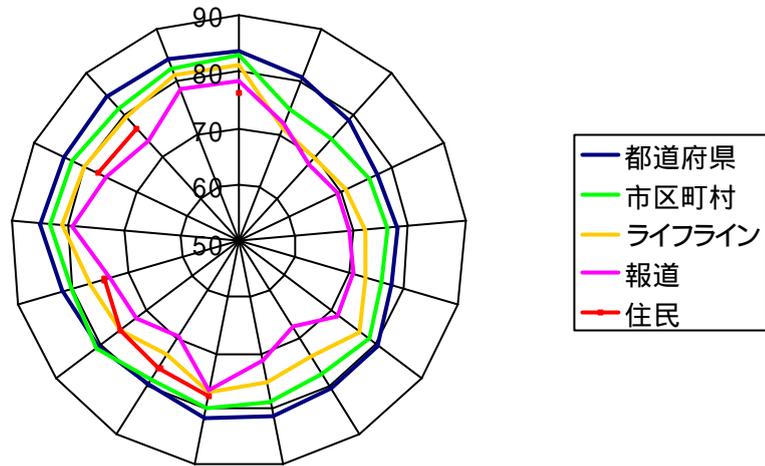


- ・地震情報の総合評価では、「満足」と「まあ満足」の合計（満足計）が平均で9割をはるかに超えて、全体としてかなり高い満足度を示している。
- ・利用者の区分別の満足度を総合評価点や「満足」の割合で見ると、都道府県、市区町村、ライフラインの順に高く、最も低い報道でもかなりの満足度を示している。
- ・利用者別、住民の居住地別にみた満足度の高低の傾向は大雨警報・台風情報と類似し

ているが、居住地による住民の総合評価点の違いは最大で7点程度にとどまり、大雨警報・台風情報に比べ居住地による違いは小さい。

イ 地震情報の評価項目ごとの重視度・満足度

地震情報に対する評価項目ごとの満足度

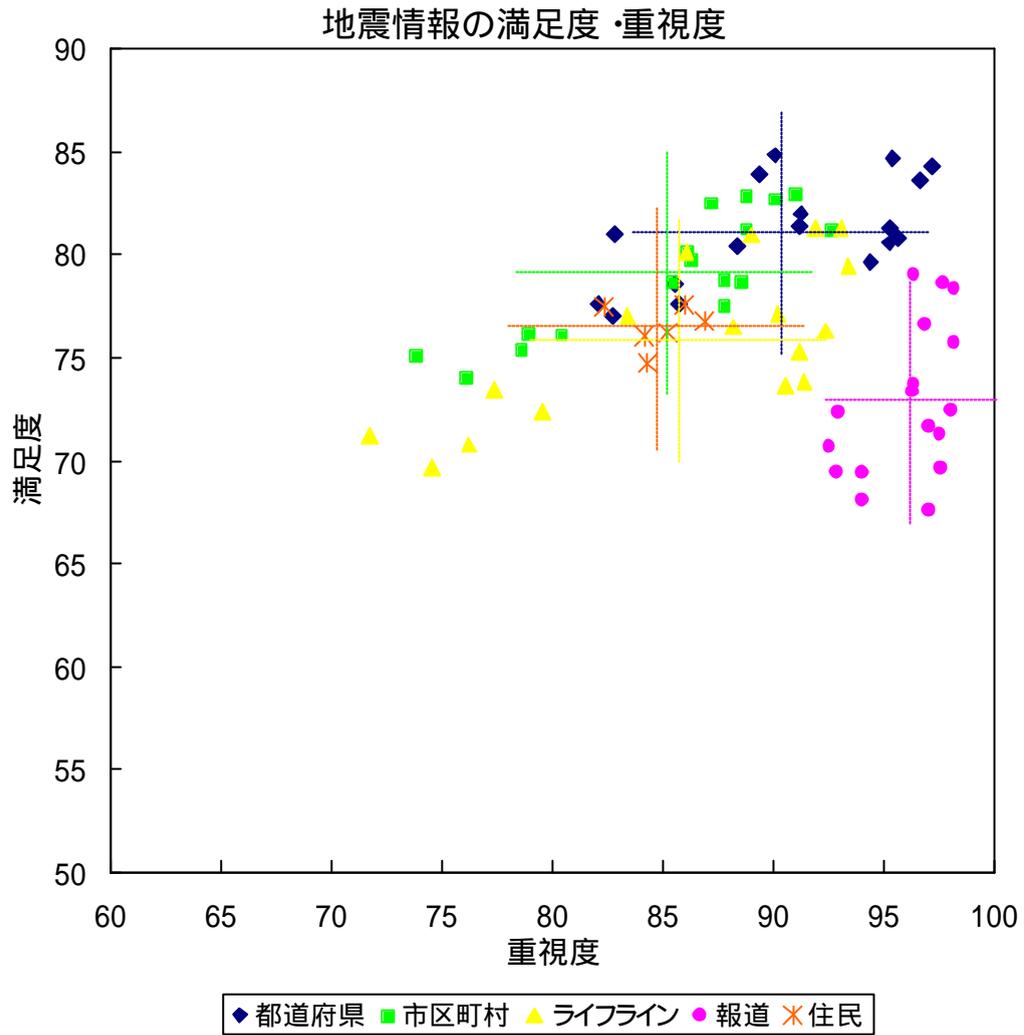


評価項目

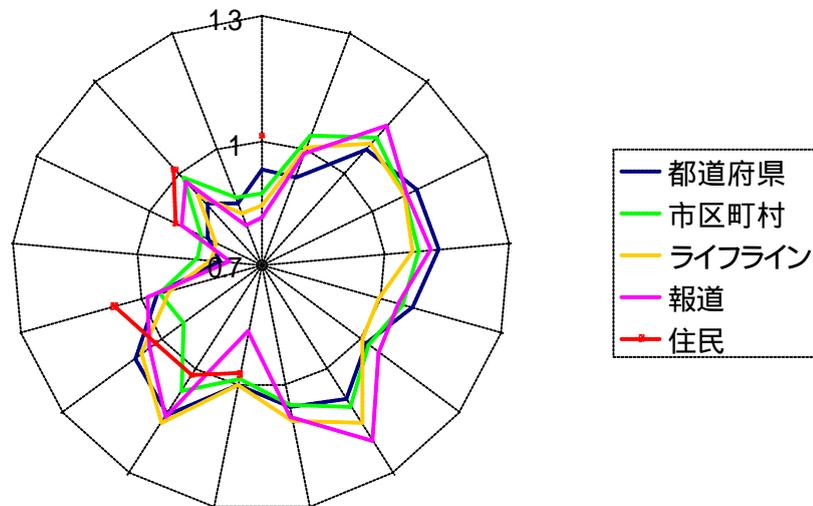
震度速報 (発表地域の単位・名称)	震度速報の発表までの時間	気象台の解説内容の専門性
震度速報 (発表基準)	市町村ごとの震度発表までの時間	気象台の解説のわかりやすさ
市町村 (地点) ごとの発表震度	入手方法	地震解説資料
震源の精度 細かさ	震度速報を入手するまでの時間	気象台との連携
地震の規模 (M :マグニチュード)	市町村ごとの震度入手までの時間	気象台職員の対応
内容のわかりやすさ	震源 規模を入手するまでの時間	

- ・ 評価項目ごとの満足度評価点では、総合満足度と同様、全般傾向として都道府県の評価が高く、報道で低い。(大雨警報・台風情報における傾向と同じ。)
- ・ 評価項目別の満足度評価点には、最大 10 点程度の違いがみられ、全般に ~ の情報の内容に係る項目の満足度が高く、~ の気象台の解説等に対する満足度が低い。
- ・ 評価項目ごとの「不満足」または「やや不満足」の理由として、と に関して市町村ごとの震度の発表・入手までの時間がかかりすぎているとの意見が多く、 に関して全ての市町村の震度が発表されていないこと(市区町村、住民)と震度発表地点が多すぎる(報道)などが目立った。
- ・ 満足度と重視度の評価点を平面図でみると、各項目を全般に重視し満足度は低い傾向の報道や、重視度と満足度が相対的に高い都道府県の意識が目立っている。また、各利用者とも重視度評価点の高い項目ほど満足度評価点が高く、全体として要求に沿った情報の作成・提供等がなされているものと考えられる。
- ・ 改善要求度(重視度が高い一方で満足度が低い項目で数値が大きく、利用者別に平均したもの)は、各利用者とも類似した傾向がみられ、改善要求が大きい項目は、と (市町村の震度発表・入手までの時間)、 ~ (気象台の解説等)があげられる。

また、住民では（内容のわかりやすさ）も改善要求が大きい項目である。



地震情報に対する評価項目ごとの改善要求度

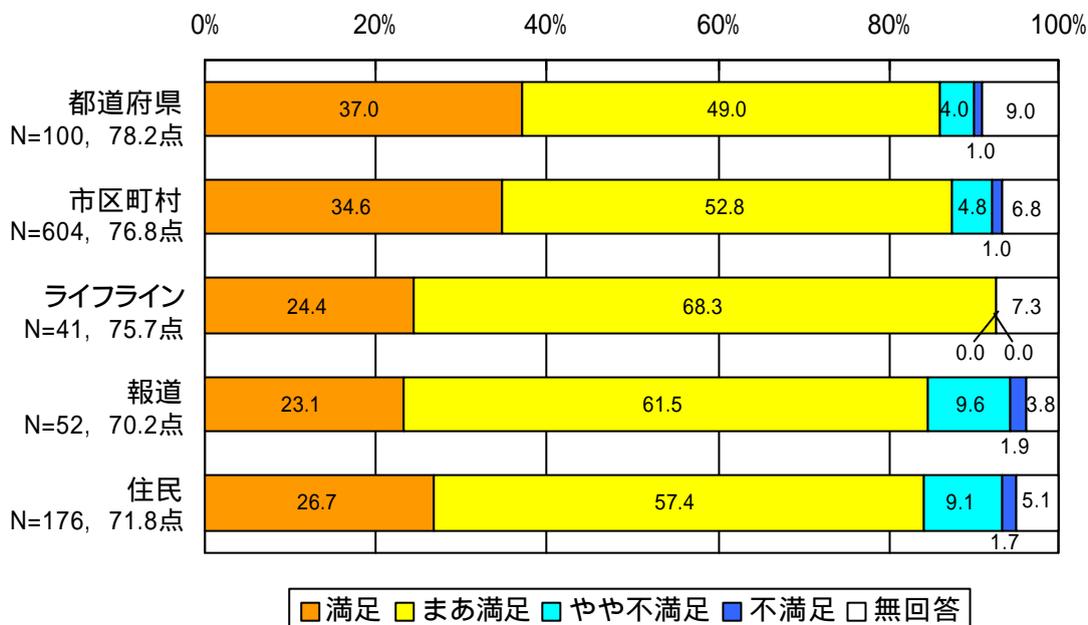


#### (4) 津波予報・情報の満足度

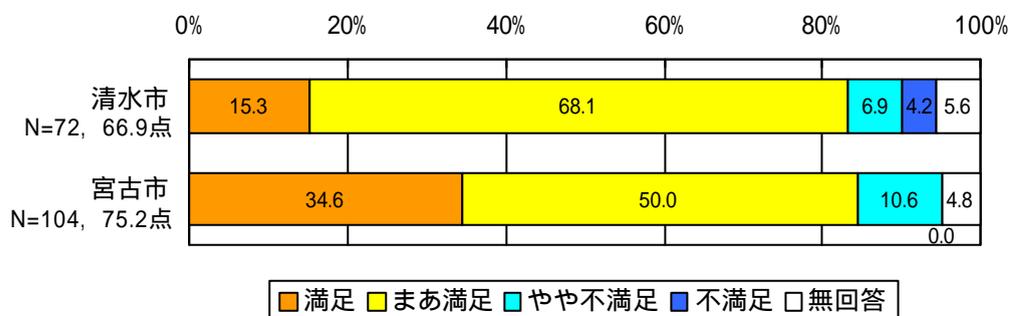
##### ア 津波予報・情報の総合満足度

津波予報・情報の満足度は、沿岸に位置する又は沿岸地域を管轄に持つ機関と宮古市・清水市在住の住民を対象に集計した。

#### 津波予報・情報の総合満足度



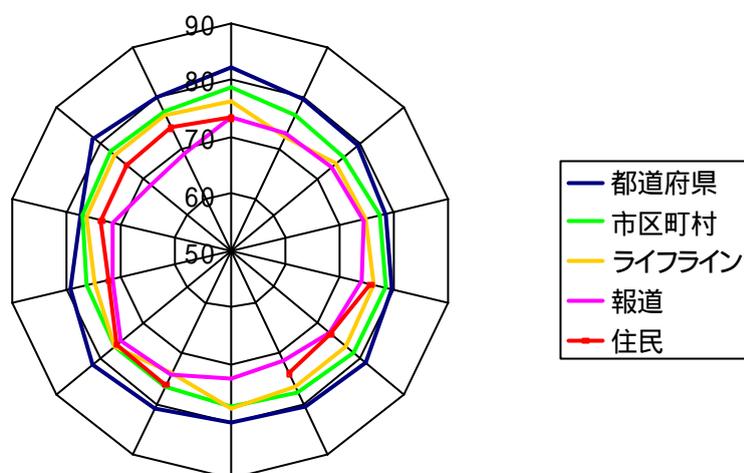
#### 津波予報・情報の総合満足度（住民）



- ・各利用者ともに、「満足」と「まあ満足」の合計（満足計）は8割を超えて全体として高い満足度を示している。利用者別では、総合評価点は70点～78点に分布する。
- ・利用者の区別に「満足」から「無回答」までのそれぞれ割合をみると、都道府県と市区町村、報道と住民で、それぞれ似たパターンを示している。
- ・居住地別の住民（清水市、宮古市）の総合満足度でみると、満足計には違いはないものの、宮古市では、「満足」が清水市の2倍以上の割合となるなど、総合評価点で8点以上高く、市区町村の評価により近くなっている。

## イ 津波予報・情報の評価項目ごとの重視度・満足度

### 津波予報 情報に対する評価項目ごとの満足度



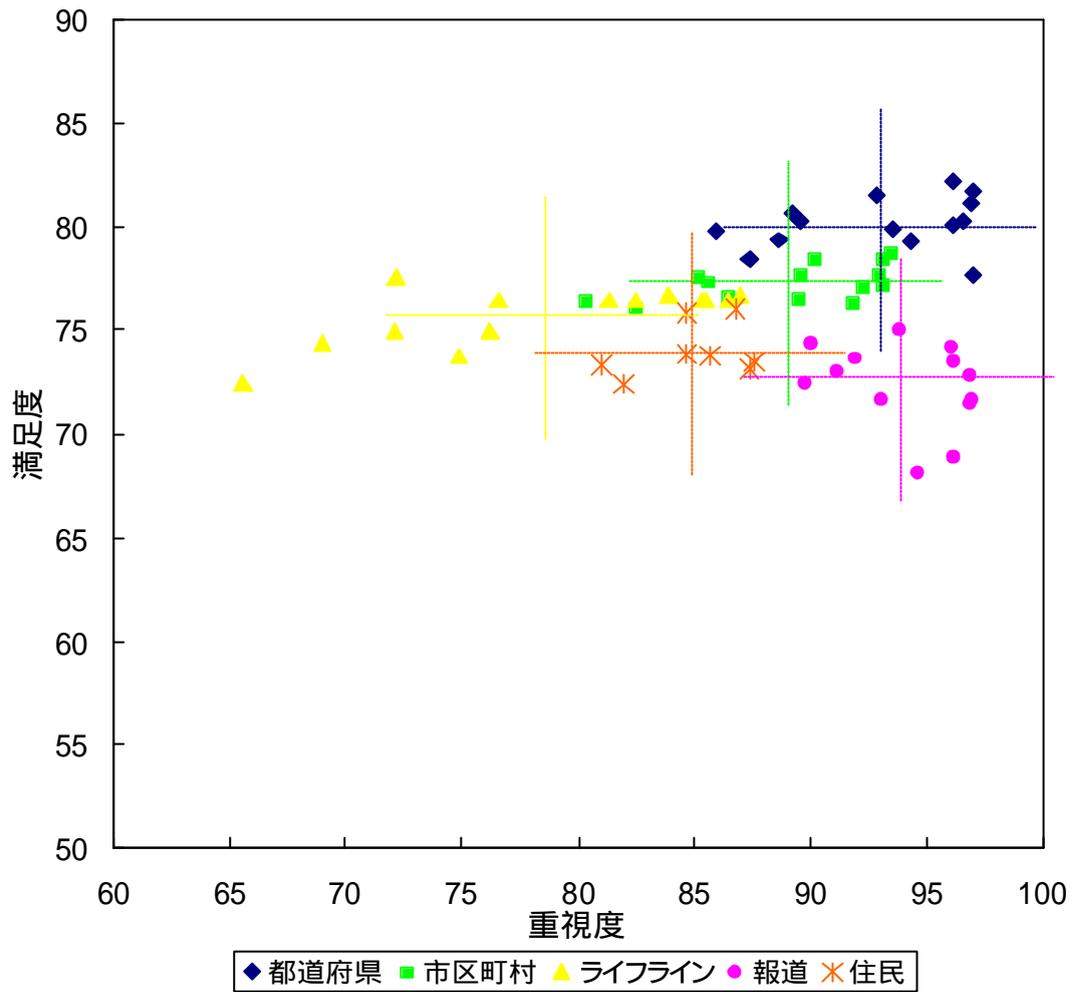
#### 評価項目

津波予報の対象地域 (予報区) 予測精度 (警報、注意報の区分) 内容のわかりやすさ 発表のタイミング 解除のタイミング	発表から受信までの伝達時間 入手情報のきれいさ・見やすさ 受信装置の操作性 各地で予想される津波の高さ 津波が各地に到達する予想時刻	津波が観測された時刻や高さ 地震解説資料 気象台との連携 気象台職員の対応
--	--	--

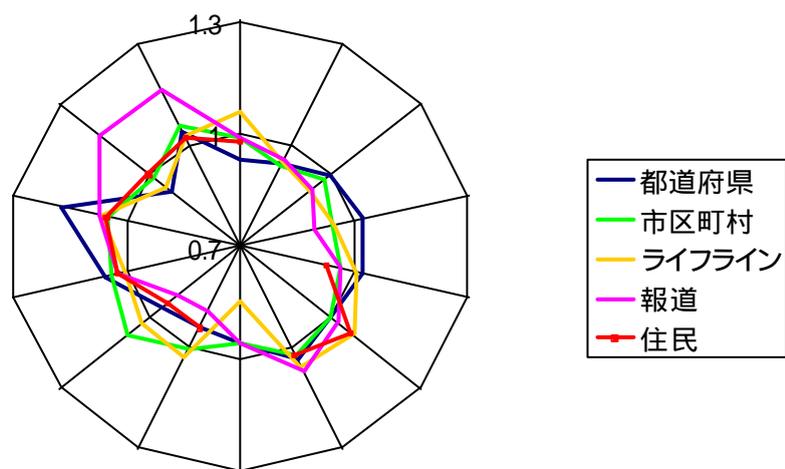
- ・ 評価項目ごとの満足度評価点の全般傾向は、総合評価点と同様、都道府県で高く、報道で低い。報道において や の満足度評価点が目だって低いことを除けば、同じ利用者区分の間では、項目ごとの満足度評価点の違いは小さい。
- ・ 評価項目ごとの「不満足」または「やや不満足」の理由として、 に関して「早い予報発表」、 に関して「迅速な伝達」(市区町村)、 に関して「対象地域の細分化」の意見が目立った。
- ・ 満足度と重視度の評価点を平面図で見ると、全般傾向として、同じ利用者区分の間では、重視度の方が満足度に比べ項目ごとの評価点のばらつきが大きい。
- ・ 改善要求度(重視度が高い一方で満足度が低い項目で数値が大きく、利用者別に平均したもの)の大きい項目としては、報道機関における (予測精度)と (内容のわかりやすさ) 都道府県における (発表タイミング)が目立っている。

なお、津波予報・情報の満足度については、ほとんどの回答者が、新しくなった予報・情報(予報区の細分化、予想される津波の高さの発表)に関しては利用経験がないことから、重視度については評価項目ごとに異なった評価(採点)を行うことができて、満足度についてメリハリを付けた評価(採点)をすることができなかつた可能性があることに留意が必要である。

### 津波予報・情報の満足度・重視度



### 津波予報・情報に対する評価項目ごとの改善要求度

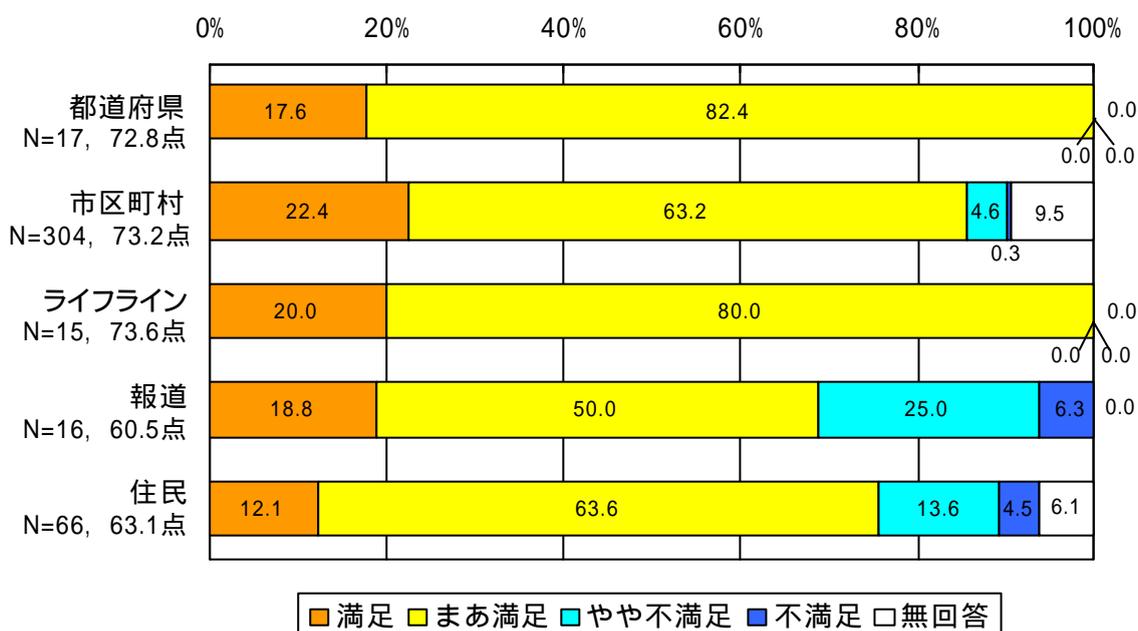


( 5 ) 東海地震に関係する情報の満足度

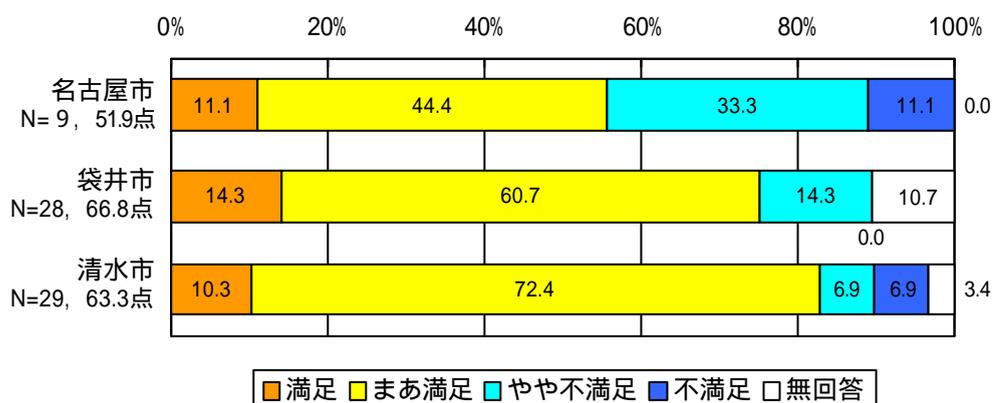
ア 東海地震に関係する情報の総合満足度

東海地震に関係する情報の満足度は、東海地震に係る地震防災対策強化地域およびその周辺に位置する機関のうち情報を入手している機関と情報を知っていると回答した住民（名古屋市、袋井市、清水市）を対象に集計した。市区町村、住民以外は、サンプル数が少ないことに留意が必要である。なお、防災関係機関では、解説情報や判定会委員打合せ会コメントを「知っている」と回答した割合は、それぞれ約 66%、45%にとどまっており、その情報の認知度の向上が課題である。

東海地震に関係する情報の総合満足度



東海地震情報の総合満足度（住民）

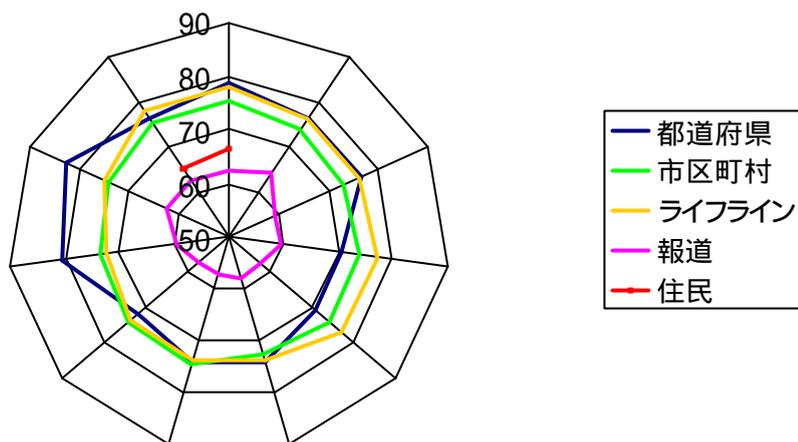


- ・ サンプル数の多い市区町村や住民全体では、「まあ満足」の割合が3分の2弱で、「やや不満足」と「不満足」の合計（不満足計）がそれぞれ5%、19%となっている。
- ・ 報道の総合評価点は、極端にサンプル数の少ない名古屋市の結果を除き、今回の調査対象の情報のなかで最も低くなっており、一方で、都道府県やライフラインでは「や

や不満足」や「不満」の回答がないなど、極端な結果が得られた（サンプル数の少ない影響がでているものと考えられる）。

## イ 東海地震に係る情報の評価項目ごとの重視度・満足度

### 東海地震に係る情報に対する評価項目ごとの満足度

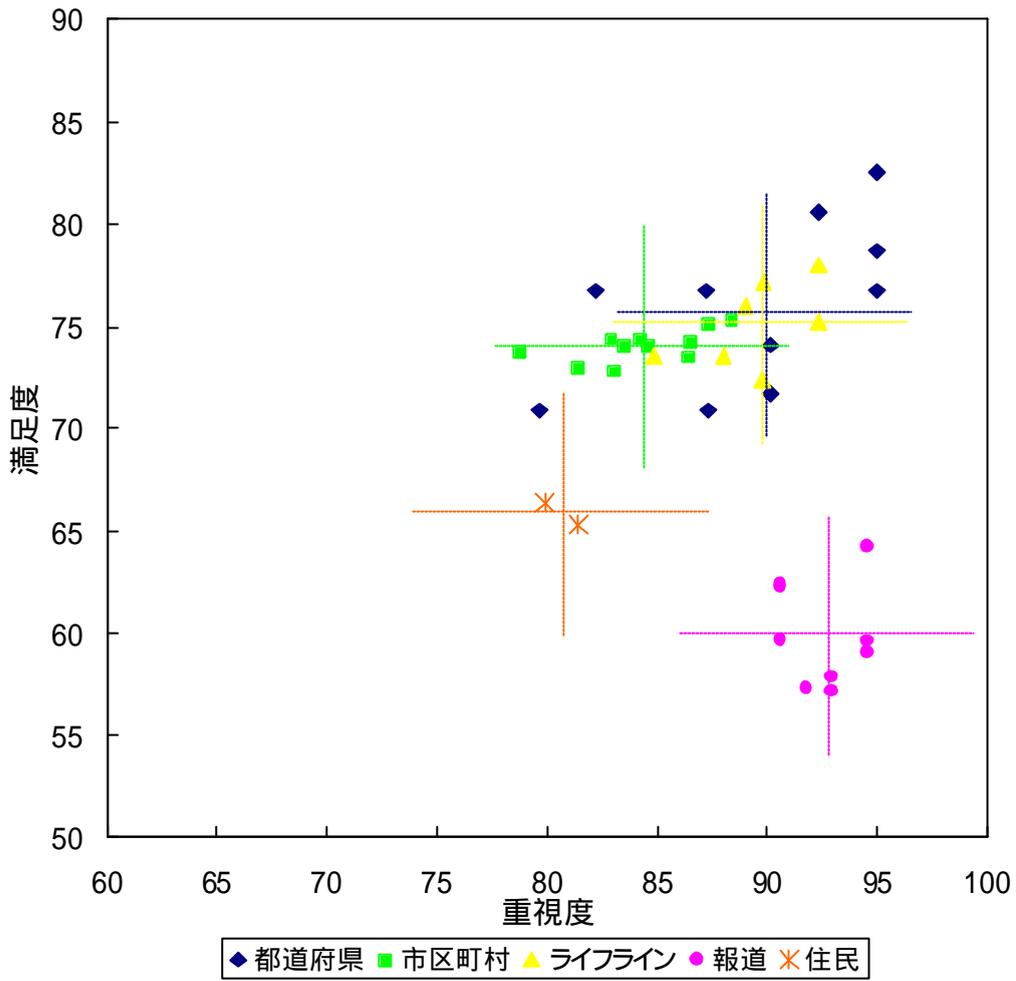


#### 評価項目

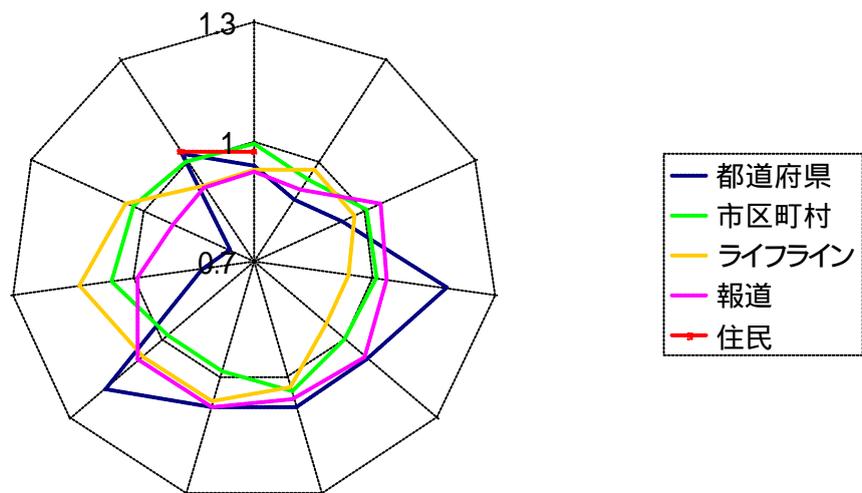
解説情報	判定会委員打合せ会コメント	(共通)
内容の理解のしやすさ	内容の理解のしやすさ	気象台の解説内容の専門性
知りたい内容の有無	知りたい内容の有無	気象台の解説のわかりやすさ
発表のタイミング	入手までの時間	気象台との連携
入手までの時間		気象台職員の対応

- ・ 評価項目ごとの満足度評価点における特徴のひとつは、報道において極端に満足度が低いことがあげられる。報道では、特に ~（判定会委員打合せ会コメント関係）の項目に対して評価（満足度）が低い。
- ・ 都道府県における評価項目ごとの満足度評価点では、（発表のタイミング）と（入手までの時間）の評価が高く、と（気象台の解説等）に対する評価が低い。
- ・ 市区町村やライフラインでは、評価項目別に満足度評価点の大小が現れていない。
- ・ 評価項目ごとの「不満足」または「やや不満足」の理由に関して、とについては内容をわかりやすく、専門的な解説をできるだけわかりやすく、とについては迅速な発表と伝達（入手）の希望が出されている。
- ・ 満足度と重視度の評価点を平面図でみると、報道における重視度の高さと満足度の低さが顕著である。
- ・ 改善要求度（重視度が高い一方で満足度が低い項目で数値が大きく、利用者別に平均したもの）の大きい項目としては、都道府県や報道において ~（判定会委員打合せ会コメント関係）やと（気象台の解説等）などが、ライフラインにおいて（入手までの時間）や ~（判定会委員打合せ会コメント関係）が目立っている。

### 東海地震に関する情報の満足度・重視度



### 東海地震に関する情報に対する評価項目ごとの改善要求度

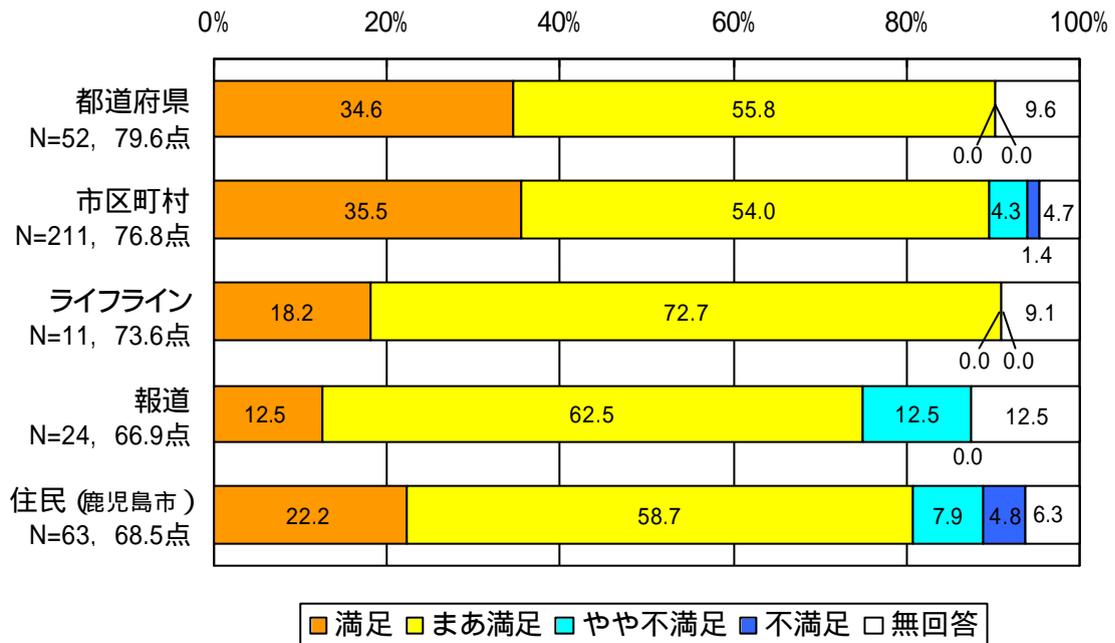


(6) 火山情報の満足度

ア 火山情報の総合満足度

火山情報の満足度は、活火山やその周辺に位置する又はその地域を管轄に持つ機関のうち情報を入手している機関と情報を知っていると回答した住民（鹿児島市）を対象に集計した。ライフライン、報道は、サンプル数が少ないことに留意が必要である。

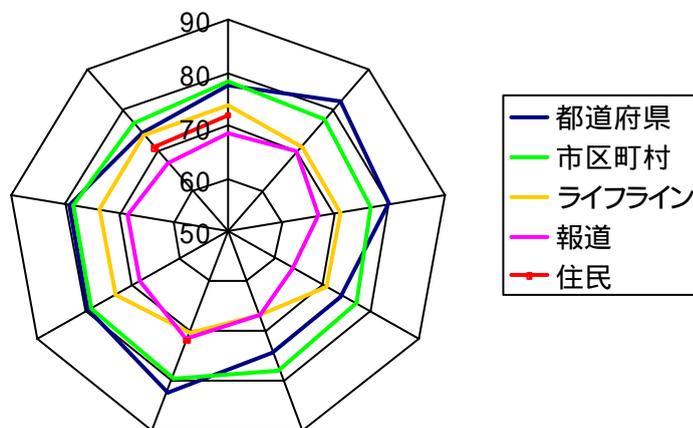
火山情報の総合満足度



- 都道府県、市区町村、ライフラインでは、「満足」と「まあ満足」の合計（満足計）がほぼ9割に達しかなり高い満足度を示している。一方、報道機関では、「やや不満足」の割合が「満足」と同程度あり、また「無回答」も同程度に多い。

イ 火山情報の評価項目ごとの重視度・満足度

火山情報に対する評価項目ごとの満足度

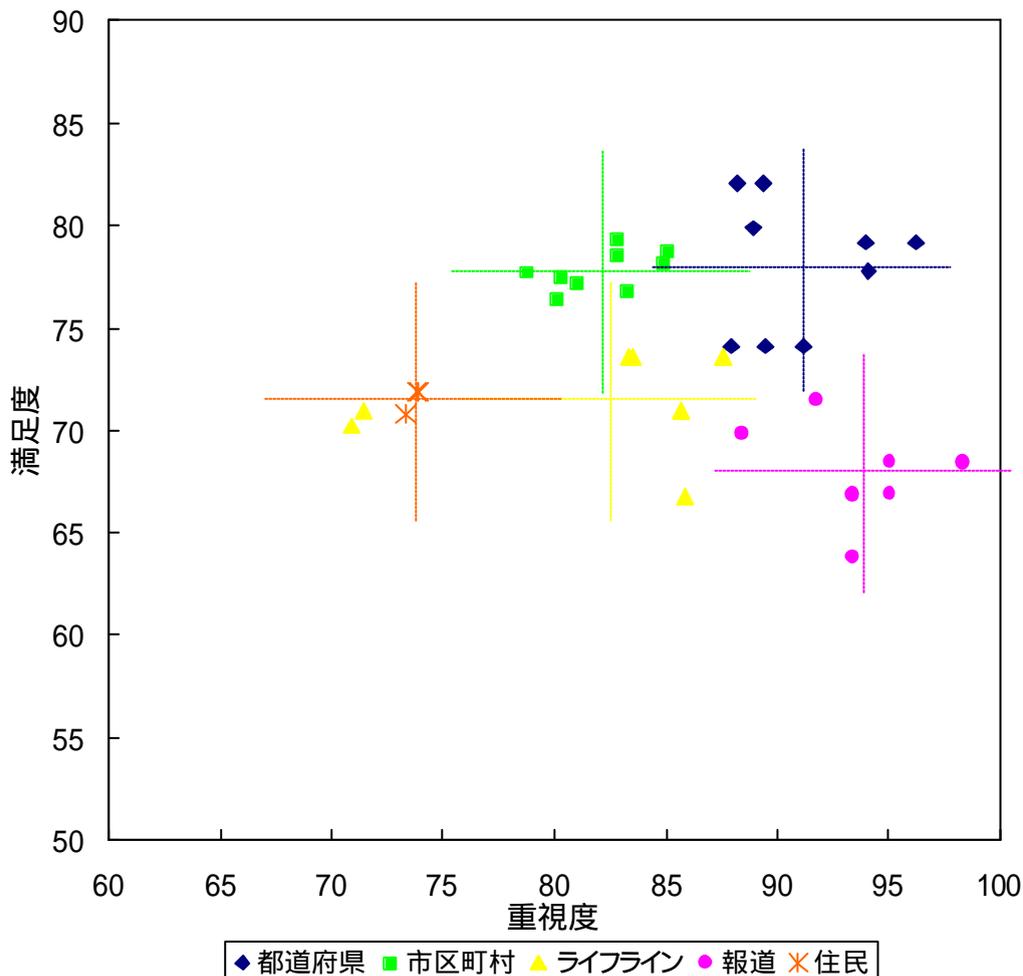


評価項目

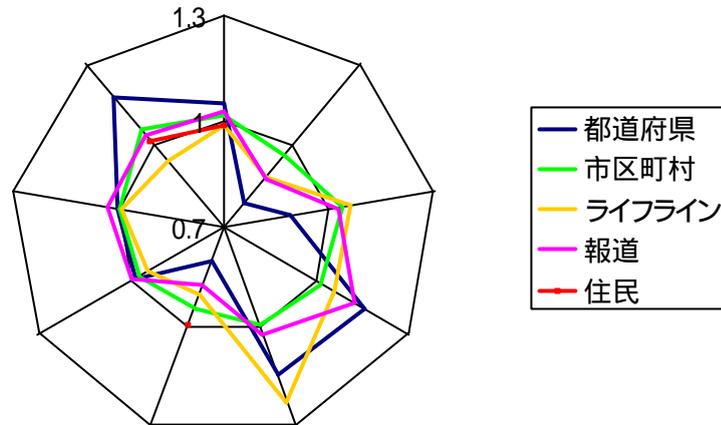
火山活動の観測 分析内容 内容の理解のしやすさ 発表(入手)のタイミング	発表の頻度 入手手段 気象台等の解説内容の専門性	気象台等の解説のわかりやすさ 気象台等との連携 気象台等の職員の対応
--	--------------------------------	--

- ・ 評価項目ごとの満足度評価点の全般傾向は、都道府県や市区町村で高く、報道で低い。これらの機関では、全般に や の評価(満足度)が高く、 、 、 の評価が低い。
- ・ 評価項目ごとの「不満足」または「やや不満足」の理由として、 と に関して専門用語が多いが噴火などとの関連の解説が少なく、わかりにくい表現であるという回答が目立った。
- ・ 満足度・重視度評価点の平面図では、報道において重視度が高く満足度が低い、都道府県やライフラインでは項目ごとの満足度・重視度にばらつきが比較的大きい、住民においては重視度が低いといった特徴がみられる。
- ・ 改善要求度(重視度が高い一方で満足度が低い項目で数値が大きく、利用者別に平均したもの)の大きい項目としては、それぞれ、都道府県における (内容の理解しやすさ)や (解説内容の専門性)と (解説のわかりやすさ)、報道における (解説のわかりやすさ)が目立っている。

火山情報の満足度・重視度



## 火山情報に対する評価項目ごとの改善要求度

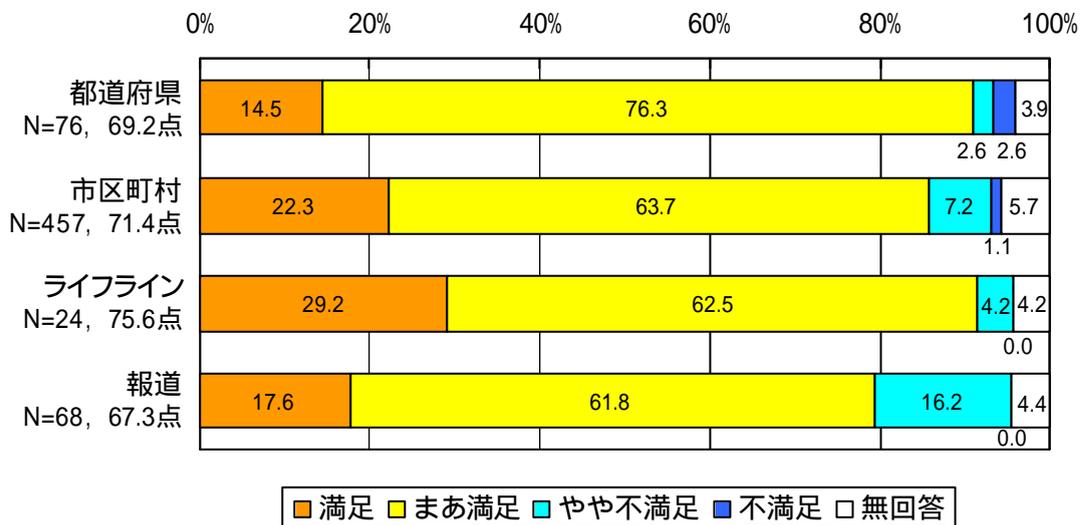


### (7) 気象統計情報の満足度

#### ア 気象観測統計の満足度

気象の観測について統計資料（気象観測統計）を利用したことがある防災関係機関（調査対象機関の約4分の1）を対象に気象観測統計の満足度を集計した。

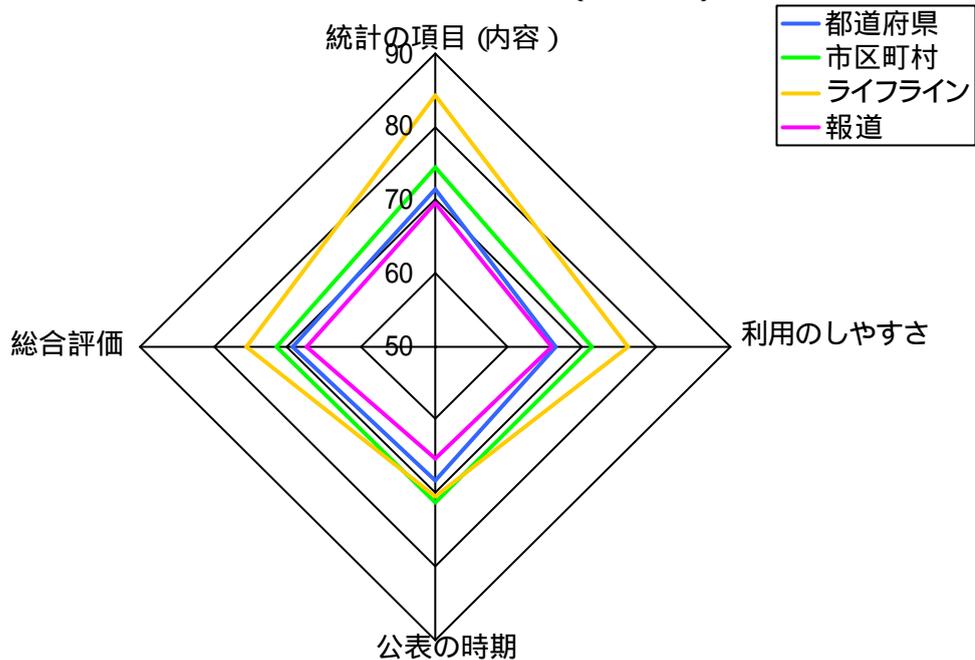
#### 気象観測統計の総合満足度



- ・総合評価点で見ると、都道府県と市区町村の評価で差は小さいが、市区町村は都道府県に比べ「満足」や不満足計の割合が多い。また、報道では「やや不満足」の割合が18%と多く、サンプル数は少ないもののライフラインからの評価が高い。
- ・評価項目ごとの満足度評価点では、ライフラインで「統計の項目（内容）」への評価が高く、「公表の時期」への評価が低い傾向はあるものの、全般として全ての項目に対して同様な評価結果となった。「不満足」または「やや不満足」の理由として、公

表が遅い、インターネットで利用できない、データの存在を知らない等が目立った。

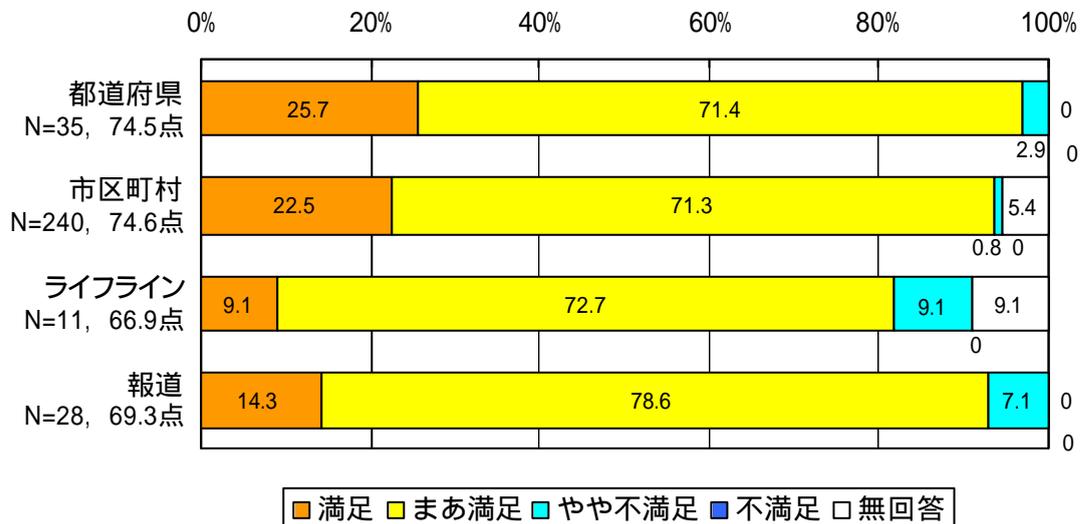
### 気象観測統計の満足度（評価点）



#### イ 気象災害統計の満足度

気象と風水害、土砂災害等との関係調査資料（気象災害統計）を利用したことがある防災関係機関（調査対象機関の約 12%）を対象に気象災害統計の満足度を集計した。

### 気象災害統計の総合満足度



- ・都道府県と市区町村では、気象災害統計の平均評価点が約 75 点で、気象観測統計に比べ 3 ~ 5 点評価が高い。また、サンプル数が少ないものの、ライフラインにおける評価は、気象観測統計の評価に比べかなり低くなっている。
- ・また、利用しない理由として、利用する機会や必要性がない、地元の観測値がない、必要な統計がないなどの回答が目立った。